

# 臨床獣医師から見た

# 養鶏業界

# 49

株式会社ピーピーキューシー研究所 加藤 宏光

## 精密養鶏

先月に述べた推計学的データ処理は鶏群管理に有用な技術ですが、養鶏経営に必ずしも直結しません。推計学に先だつて記述した「精密養鶏」は、経営を緻密に行うために生産にかかわる数値をすべてクリアにして、さらにそこから現在ある経営環境を把握することを意味します。

もちろん、群の一部についてのデータをもとに、群全体の数値を算出し、各群のそれらを組み合わせると、全体像を組み上げることも可能です。しかし、採卵養鶏では、集卵用トレイ（アメトレイ）が三〇個入りであり、これを収納する運搬用コンテナが八枚入りであることから、各群ごとに必要なコンテナ個数をカウントすることで、容易に産卵実数が押さえられます。

産卵重量も、四八〇個当たりの重量を測定後に風袋引きすれば、日々の正確な数値が得られます。成鶏舎に導入した際の羽数は、ケージ数を

押さえてあれば正確に分かりますし、毎日の巡回で死亡数を記録するのは管理者の義務の一つです。

## データ処理

かつては、これらの数をソロバンで計算し、表に記入していました。卓上計算機が手に入るようになったのは、著者が業界に接して数年した頃でした（昭和四十五年当時の電子計算機はコンピニにあるレジスターほどの大きさで、四五万円もしたものでした）。三〇年前には、計算機はポケットに入るようなサイズにまで小さくなり、価格も数千円にまで下がり、容易に扱える器具に進化してきました。それでも、農場のデータは手計算処理の上、表に記入しなければ全体像を把握できません。やはり手間がかかって、扱い慣れない生産者にとっては敷居の高い存在でした。

パーソナルコンピュータがパソコンと呼ばれ、一般的に普及して、データをパソコン処理することが当

たり前になってきています。

農場の生産データを、抜き取りサンプルではなく、全体数を対象として日々の数値管理することは、今日では難しくありません。しかし、生産者の多くは、データにさほど強い興味を示しません。なぜなら、数値を押さえても（理解しても）それだけで生産量が増えるわけではないからです。

## 生産の向上

## 精密の意義、昨今

生産性を上げようとする場合、飼料の質、換気状況と気候、鶏舎温度、飲水量など、飼育環境を適正にかつ流動的に変化させなければなりません。データで確認した問題点と、現場管理に乖離が大きいために、本能的にギブアップしているのです。

大規模化した採卵養鶏企業では、生産性を数値で確認することは必須となっています。二〇年ほど前に「制定されたウルグアイランドの基本方針に沿った競争力を採卵養鶏産業にもつけさせよう」という論旨により、

## 《コラム1》

### 【産卵率・要求率と採算性】

まずは、問題、《産卵率と要求率が同じなら、採算性は同じか》を考えてください。

鶏種AとBで日齢はまったく同じ、産卵率、要求率も同じでそれぞれ86%、1.9とします。しかし、日卵量は同じとは限りません。Aでは59g、Bでは56gとすれば、Aでは112.1gの飼料を摂取し、Bでは108.3gの飼料を摂取していることとなります。

これらの鶏群がそれぞれ1万羽ずつ飼養されていたとすれば、1日当たりのAの生産量は590kg、Bでは570kgでその差は20kgです。

生産コストが150円/kgとし、この価格で販売するとした場合、3,000円の収入差です。また、AはBより38kg余分にエサを食べますから、飼料単価を4万円として1,520円コストが余分にかかります。従って、差し引き1,480円/日、A群が余計に稼ぐこととなります。

この調子で1年が過ぎると、単純計算で54万円余りの利益差が生じます。

35年ほど前までは、日本市場は大玉嗜好でした。その時分には、飼料単価も相まって、利益差は100万円を超えるほどでした。

現在の卵市場では、景気低迷のせいかM～MSに嗜好が集中し、かつてのような条件がうまく作用しなくなっています。

## 《コラム2》

### 【ウルグアイ・ラウンド】

1986年9月にウルグアイで合意された、関税と貿易に関する閣僚会議。新しい多角的貿易交渉であり、従来のモノの貿易だけでなく、金融・情報・通信などのサービス産業も項目に取り上げられました。この場で日本の米に関する輸出入についても、部分的にしろ自由化が求められ、割当量の輸入が行われています。ちょうどこの時期に、著者たちは先進国型農業事情の調査に北欧を訪ねていました。600%の輸入関税をかけるという高いハードルながら、米の輸入が解禁されるという情報は、視察メンバーにとってもある衝撃を与えたものでした。

産業の構造改善を推進するために制定された経営近代化資金、いわゆる「制度資金」の融資を受けるためには、自分の生産性現状を数値を通して完全に把握していることが必須条件となります。

もつとも、貸出金額にノルマのあったこのような資金を借りるに当たって、自分の経営内容を担当の銀行員に整理してもらい、返済計画書は農業普及所の担当官に作成してもらう、といった他人任せな融資を受けられた時期もあったと聞いています。聞くところによると、畜産業界全体への制度資金融資の九〇%以上の案件で返済が滞っているそうです。自分自身の経営内容を、自分で分析できないで、巨額の融資を受けることの危険性を示唆するように思えてなりません。

### 経営とは

採卵養鶏業の経営とは、単純に言えば、鶏に卵を産ませ、それを市場に販売する”ということになります。

そして、それにかかわるお金を滞留させることなく流れさせることに尽きます。

お金は市場で買い取られた代金が流入してきますし、生産に必要とされた経費がそこから支払われます。卵の販売価格は、①相場にスライドする、②固定価格で販売する、という二種類があります。相場はそのときどきの需給バランスで決まります。売り手の懐事情を勘案してくれるとはありません。相場の安い正月明けには資金がショートしがちです。また、ゴールデンウィーク明けや、学校が夏休みになる七、八月も相場は概して安いものです。このような変動をいかに吸収するか……は重要な課題でしょう。

まして、設備投資に借入金을当てている場合には、さらに複雑な配慮が必要になります。

経営の醍醐味とも言えるこれらのバランスは個々の経営者の個性を具現化する芸術ともいえます。

次号では、いまま少し、生産データと経営のバランスについて触れることにしましょう。

